

令和4年度日本カヌースプリント選手権大会 (令和4年9月7日~11日)



C-1 1000m

さとう ひかる
佐藤 光 2等陸曹

K-1 1000m

あおき みづき
青木 瑞樹 陸士長

初優勝

3種目において

K-2 500m

あおき みづき とみづか はるゆき
青木 瑞樹 陸士長 **富塚 晴之** 陸士長

令和4年9月7日~11日に石川県小松市木場潟カヌー競技場において令和4年度日本カヌースプリント選手権大会が行われた。昨年度の日本選手権は、新型コロナウイルス感染症拡大により中止となり2年ぶりの開催となった。

自衛隊体育学校カヌー班からは、佐藤光2等陸曹以下4名が出場し、佐藤2曹、青木瑞樹陸士長、富塚晴之陸士長がそれぞれの種目において初優勝の成果を取めた。



大会1日目にC-1 1000m(カナディアン1人乗り)種目予選に出場した佐藤2曹は、序盤から先頭に立ち他の選手を寄せ付けることなくゴール。最終的に2位以下に100m以上の差をつけ余裕を持って勝利し、早々と決勝進出を決めた。翌日の決勝は、予選1位の3名と準決勝を勝ち上がった6名の選手で行われ、昨年の2020東京五輪代表の宮銘孝仁選手(アーネスト株式会社)や、この種目で2連覇している永沼駿選手(宮城県カヌー協会)などの実力者が揃った。佐藤2曹は第4レーンからスタート。選手は互いに牽制しあいながらほぼ横一線の状態で残り200mを迎え、佐藤2曹がラストスパート。ここで一気にトップとなり2位に約4秒の大差をつけ、4分3秒353でゴールし、自身初の日本選手権初優勝を手にした。

試合後、佐藤2曹は、「今シーズン1000mに力を入れて練習してきたので優勝できて嬉しい。今後は世界でも勝てるように努力していく。」と抱負を語った。



同じく大会1日目に、K-1 1000m(カヤック1人乗り)種目に出場した青木士長は、予選・準決勝共に、危なげなく1位で通過し決勝へ勝ち進んだ。迎えた決勝には9名が出場し、その中には2020東京五輪代表の水木圭治選手(チョープロ)や、この種目で前回優勝している棚田大志選手(医療法人興生会吉本整形外科・外科病院)などの実力者が順当に勝ち上がってきた。ここで勝てばシニアの大会で初優勝と、パリ五輪にむけた大きな自信となる青木士長には最高の舞台ができた。試合は、500m中盤まで拮抗する展開。そこから各選手がラストスパートで勝負にでたが、長い距離を一定の力で漕ぎ続けることを得意とする青木士長は、その勢いを止めることなく他の選手を4秒以上突き放し、3分40秒476でゴールした。

試合後、青木士長は、「自分の思い描いていたレースプランで優勝することができて嬉しい。タイムも自己ベストに近いタイムが出せたので嬉しい。」と語った。



2024パリ五輪出場を目指す佐藤2曹



シニアで初優勝の青木士長

